



JIC インフォメーション

第 239 号 2026 年7月 10 日
年 4 回 1・4・7・10 月の 10 日発行
1 部 500 円

<https://www.jic-web.co.jp>

発行所: JIC 国際親善交流センター 発行責任者: 伏田昌義

東京オフィス: 〒160-0022 東京都新宿区新宿 1-10-5 岡田ビル 6 階 TEL: 03-3355-7294 jictokyo@jic-web.co.jp

大阪・ロシア留学デスク: 〒540-0012 大阪市中央区谷町 2-2-22 NS ビル 5 階 TEL: 06-6944-2341

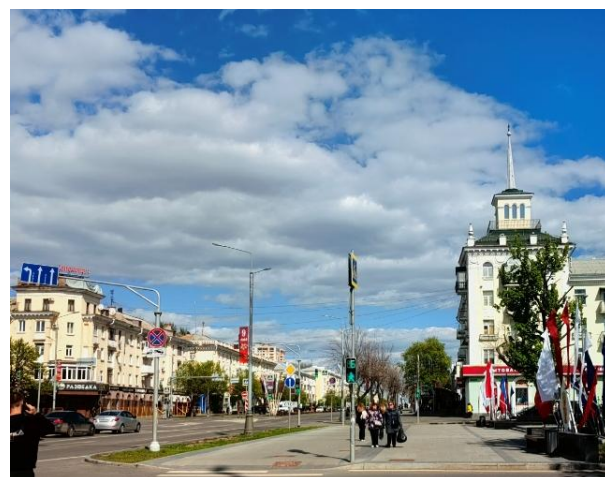
はりねずみのジェーニャ



ロシア・旧ソ連 国際交流誌



写真は、本紙記事より抜粋



京都外国語大学 第 3 回全国ロシア語圏プレゼン大会

.....小西 章子.....2P

《日ロ交流情報》

ロシア文化フェスティバル 2026 オープニングほか.....3 P

《投稿》旅行記〜ドンバスの今を見る

ルガンスク、ドネツクを訪問.....田村 虎之亮.....5P

《連載》「徳山あすかのロシア生活」

モスクワ国際バレエコンクール、日本勢が大活躍.....7P

《連載》こんな時代にロシア語のすすめ

「汚れた紙幣はさっさと使う」.....黒田 龍之助.....10P

《本の紹介》「海峡の向こうの隣人たち」ほか.....11P

《講演録》「プーチンの歴史認識とウクライナ戦争」

.....上月 豊久.....13P

Jクラブ(JIC 友の会) 会員募集中。年 4 回の情報満載のインフォメーションをお届けします。

京都外国語大学 第3回全国ロシア語圏プレゼンテーション大会

全国から高校生・大学生が集結

小西 章子 (JIC 大阪)

2026 年 6 月 13 日(土)、京都外国語大学で、全国ロシア語圏プレゼンテーション大会が開催されました。第 3 回を迎えたこの大会は、「私が推したいロシア語圏」がテーマです。ロシア語圏の国々・地域に関心を持っている高校生・大学生のみなさんが、各々興味のある点を探求し、その成果を発表しました。

参加者は関西圏にとどまらず、東は秋田県から、西は島根県や香川県まで、大会名の通り、全国から広く集まっていました。

高校生の部は 6 組 9 名、一般の部は 9 名（うち 1 名辞退）のエントリーがあり、各部門 3 位までの入賞者には副賞が贈呈されました。ジェーアイシー旅行センター（株）も協賛企業として、第 1 位入賞者にオンラインロシア語研修（サンクトペテルブルグの語学学校「デルジャーヴィン・インスティトゥート」提供レッスン）を贈呈しました。

また、この度は私・小西も、京都外国語大学の五十嵐徳子先生、ISI ランゲージスクールの宮久保祐子先生とともに審査員を務めるという大役をいただきました。参加者のみなさんそれぞれの「推し」への熱量を間近で感じることができましたし、みなさんがロシア語圏の社会や文化について、学問を超えた興味を持っていることに感銘を受けました。

プレゼンテーション大会の結果と発表テーマは、京都外国語大学ロシア語学科のホームページに詳しく掲載されています。

本報告では、審査員の一人として参加した感想を、みなさんと共有したいと思います。

【高校生の部】

この大会の一つの特徴として、日本語でプレゼンテーションができるという点があります。ロシア語力は全く必要ありません。高校生の時点でロシアや旧ソ連圏に興味を持っていても、ロシア語を学ぶことは簡単なことではありません。身近にロシア語を学べる環境があることは非常に稀です。言語的な間違いに気を遣うことなく、自分の言葉で、内容に注力して説明することができます。言語力とは別のベクトルで設けられたこの大会は、ロシア語の習得に及ばない段階であっても、ロシア語圏の何かしらに興味を持つ学生にアプローチする有意義な大会だと思います。

参加者が選んだテーマはどれも分かりやすく、スライド



はシンプルながら平易な言葉で要点が見やすくまとめられていました。高校生でもここまで用意ができるものなのかと驚きました。発表も決してスライドを読み上げるのではなく、自分の言葉で説明が加えられ、また SNS を使用してアンケートを実施・考察するなど、それぞれの工夫がありました。

今回は 2 名で参加した各組が上位入賞しました。プレゼンテーションからは、準備段階でのお互いの協力が感じられ、発表内でも体を使った実演をするなどの工夫が見られました。しかし、高校生にもかかわらず 1 人で果敢にエントリーし、プレゼンテーションに挑んだ人たちの挑戦にも拍手を送りたいと思います。壇上から緊張感が伝わってきましたが、興味を持ったポイントが、ダイレクトに伝わる素晴らしいプレゼンテーションでした。

【一般の部】

大学生の参加者も、決してロシア語を専攻している学生ばかりではありませんでした。理学部、商学部の学生さんもいて、かなりマニアックなもの、本格的な研究に近いもの、「初耳ですが??」といった人物を深掘りしたものなど、さすが大学生と唸るような多種多様な内容が揃いました。用意されたスライドは、ビジュアル的に工夫が凝らされていたものが多く、「推し」の魅力がありすぎて情報がギュウギュウに詰め込まれたものもありました。

大学生のみなさんのプレゼンテーションから感じたのは、自分で体験したことや自分の目で見えてきたことに関する話には説得力が宿るということです。実際に体験するというのはなかなか簡単ではありませんが、これから将来、興味を持ったことに対しての探求の一環として、本を読む

だり、インターネットで調べたりするのをきっかけに、実際に見たり体験したりすることにつながっていくといいな、と思いました。



(上)高校生の部(下)一般の部 の参加者たち



【さいごに】

今回このプレゼンテーション大会に参加させていただき、ロシア語力は関係なく、ロシア語圏の「推し」についてプレゼンテーションをする機会があるということが、素晴らしいと思いました。高校生のみなさんにとっては、ロシア語を将来学びたい、大学に入ったらロシア語圏について研究をしたい、と思うきっかけになったかもしれません。ほかの参加者のプレゼンテーションのテーマが気になったという方もいると思います。大学生のみなさんは、自分の興味の対象について自分の目で実際に見てみたい、現地に行ってその面影を感じたい、などと思った方もいると思います。ぜひ、行ってみてください！

よろしければ、その節は JIC にご相談いただければ幸いです。

また、休憩時間中や大会後の懇親会では、参加者のみなさんは学校や年齢に関係なく交流を楽しみ、大学の先生方や審査員の方とも話しをしていました。ロシアやロシア語圏に興味のある人が身近にいないという参加者も多く、お互いに刺激を与え合う貴重な機会になったと思います。来年度以降も引き続き、同様のプレゼンテーション大会が開催されることを願っています。ジェーアイシー旅行センターもこのプレゼン大会をさらに応援したいと思います。

<日ロ交流情報>



日ロ協会がセミナー開催（6月4日） 上月豊久・前駐ロシア大使が講演

6月4日、日ロ協会の「第1回ロシアを知るセミナー2026」（通算 55 回）が東京の衆議院第二議員会館で開催されました。「プーチンの歴史認識とウクライナ戦争の行方」と題して、前駐ロシア日本大使の上月豊久氏（東海大学平和戦略国際研究所所長）が講演。プーチン大統領が歴史解釈を自らの政策にいかんにか利用しているか、ウクライナ戦争の停戦交渉をめぐるプーチン流交渉スタイルや今後の交渉の焦点などが分かりやすく話されました。（13 頁に講演録を掲載）

講演に先立って、西村康稔会長（衆議院議員）が「日ロ関係をめぐる状況は決して芳しくないが、しかるべき時に備えて、交流をしっかりと続けていきたい」と挨拶したのが印象的でした。



ロシア文化フェスティバル IN JAPAN オープニング・コンサート(5月11日)

5月11日、ロシア文化フェスティバル IN JAPAN 2026 のオープニング・コンサートが、東京・銀座ブロッサム中央会館にて盛大に開催されました。コンサートに先立って、文化フェスティバル・ロシア組織委員会のシュビトコイ委員長、

日本組織委員会の栗原小巻委員長があいさつ。今年は日ロ国交回復 70 周年、文化フェスティバル 20 周年にあたり、さまざまな困難はあっても文化交流を維持・拡大していこうと力強く述べられました。

コンサートでは、ロシアから来日した 3 人の演奏家＝アレクサンドル・ラム（チェロ）、ニキータ・リュチコフ（クラリネット）、チモフェイ・ウラジーミロフ（ピアノ）を交え、日ロの若手アーティストたちが、素晴らしい演奏で観客を魅了しました。



ロシア文化フェスティバル 20 周年 記念レセプション(5 月 12 日)

オープニング・コンサートの翌 5 月 12 日、ロシア文化フェスティバル 20 周年を記念するレセプションが東京・帝国ホテルで開かれました。記念レセプションには、鈴木宗男参議院議員、鳩山由紀夫元首相、上月豊久前駐ロシア日本大使ら多くの来賓が参集し、シュビトコイ・ロシア大統領文化協力特別代表、ノズドレフ駐日ロシア大使らと歓談しました。

ロシア文化フェスティバルは日ロ国交回復 50 周年を記念して 2006 年から始まり、音楽やバレエ、美術、映画、演劇などロシア文化を紹介する多彩な催しが日本各地で行われてきました。ウクライナ戦争で日ロの政治対話と経済交流が中断する状況下で、同フェスティバルは両国を繋ぐ貴重な架け橋となっています。日本外務省が海外安全情報でロシアをレベル 3（渡航中止勧告）に指定している中でも、バレエ留学やロシア語留学など、日ロの人的交流は完全には途絶えていません。何よりもロシアからの訪日観光客はコロナ前（年間 10 万人）を大幅に上回る水準に激増しており（25 年の訪日ロシア人客は 19 万人！）、日本とロシアが互いに引越できない隣人として交流を続ける基盤は損なわれていません。この 5 月末には、日本の経済代表団がロシアを訪問し、ウクライナ戦争の終結後を見据えた経済課題を協議するなど、対話復活の機運も進み始めています。今後も、ロシア文化フェスティバルは文化交流を通じて日ロ両国民の心と心をつなぎ、

相互理解の増進に重要な役割を果たし続けることが期待されます。



在大阪ロシア総領事館で アコーディオン・コンサート

ゴールデンウィーク中の 5 月 5 日、在大阪ロシア総領事館にて、「情熱と哀愁のロシア音楽」と題して、アコーディオン・コンサートがありました（主催：関西日ロ文化サロン／協賛：大阪日ロ協会）。演奏者は、ロシア民族楽器バヤン（ボタン式アコーディオン）の名手スタス・ヴェングレフスキーさん（モルドヴァ出身で現在アメリカ在住）と、大阪出身のアコーディオニスト後藤ミホコさん。スタスさんがリードし、ミホコさんが追いかける二人即興の競演は圧巻で、アコーディオンの魅力とロシア音楽のメロディを観客は存分に楽しみました。



「ロシアの日」（6 月 12 日）を前に 大使館、領事館でレセプション

6 月 12 日の「ロシアの日」を前に、東京のロシア大使館、大阪の総領事館で、6 月 11 日にレセプションが開かれました。5 年目に入ったウクライナ戦争の下で、今一つ盛り上がりがない集まりではありましたが、ノズドレフ大使と直接言葉を交わせる機会とあって、政財界から多くの参加者が大使館に参集しました。

また、大阪のテルスキフ総領事は 5 年の任期を終えて 7 月初旬に帰任するとあって、このレセプションが事実上のお別れ会となりました。

広島県の田村虎之亮さんから興味深い投稿をいただきました。田村さんは、今年 4 月 30 日～5 月 6 日、友人を訪ねてロシア南部のノヴォロシースクとドンバス（ルガンスク、ドネツク）を訪問。以下は、その簡単な旅行記です。それにしても、現地に心強い友人がたくさんいるとはいえ、行こうと思えば行けるんですね。田村さんの勇気に敬服するしかありません。

なお、田村虎之亮さんは、東京総合写真専門学校を卒業後、ベラルーシのミンスク国立言語大学に留学されました。最近、写真展「EAST #3.5 俺が見たロシア」を開催するなど、広島・大阪・東京を中心にカメラマンとして活躍されています。（編集部）



ルガンスク市内の街並み

投稿《旅行記》

ドンバスの今を見る～ルガンスク、ドネツクを訪問

田村 虎之亮（広島県在住、カメラマン）

どういう縁なのかは分からないがロシアの南部とドンバス地方に友人が点在している。ロシア国内の友人は何人かいるがその殆どはここに集中している。5 月の連休に行く旨を、前々から話していた。ノヴォロシースクに住む友人の R はとにかく私の世話をしたがるのだが、ついにはノヴォロシースクで私が滞在するアパートを提供してくれた。ドンバス地方、ルガンスクの友人は私と行動を共にしてくれるそうだ。

モスクワからバスでルガンスクへ

4 月の終わりにソウルからドーハを経由してモスクワに向かい、翌日の 15 時にはモスクワのシェレメチエヴォ空港に到着した。入国審査で酷い目に遭わされると思っていたのだが、ほぼ素通りで指紋の登録だけで終わった。

空港からバスと地下鉄を乗り継いで中央バスセンターに到着する。ルガンスク行きのバスはここから出発している。隣がショッピングモールなので中を散策すると携帯ショップが見えた。携帯電話の SIM カードを買おうとするが銀行で手続きをしないといけないらしい。時間がないので諦めた。ローミングは楽天モバイルだが直ぐに繋がっていたので問題はなかった。

19:30 にルガンスク行きのバスは出発した。何のことはないただの高速バスだった。ただ、モスクワを離れると携帯の電波は繋がらなくなった。

ロストフ州の検問所を通過

翌日の 8 時前、ロストフ州の小さなバスセンターで小休憩が取られた。電波は回復していたので友人たちに連絡を入れた。それから 30 分ほど走ると高速道路の料金所のような所に停車する。運転手はパスポートを持って降りるように言い、私たちは外に出て中の建物に入ってしまった。パスポートコントロールらしい。要するに、ここはかつてのロシアとウクライナの国境検問所であり、新たに併合した地域に入る場合は全員がパスポートコントロールを受けなければならないということだ。検問所の名前はドネツク検問所、ウクライナ側にはイズヴァリノ検問所と書かれている。

3 列に並び一人一人がパスポートを係の者に見せる。私も同じように立ち回る。訪問目的と訪れるのが 2 回目だと言うと係の女性は内線電話を取り、別の部屋へ行くように言った。別の係の誘導で離れの詰め所に行き、部屋に案内されると迷彩服の男が座っていた。名前と住所、私と両親の職業を聞き、パソコンに打ち込んでいる。友人の話や今の戦争についてどう思うかなどの質問もあったが 20 分程で解放され、バスに戻った。

ルガンスクは変わり映えのしない旧ソ連の街並

それから一時間走ってルガンスクのバスセンターに到着